2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
生理系分野	視覚病態生理学Ⅱ特論Ⅰ・Ⅲ	古瀬 尚

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

診療を通して得られた知識を研究にフィードバックできるよう，眼科学のより基礎的・一般的な知識・考え方を身につける。

授業到達目標

（1）実際の研究は眼球，外眼筋，脳神経，視中枢などの組織が対象となるが，臓器を超えて相互に関連する生理学的・神経学的メカニズムという観点に留意して，議論を行うことができる。
（2）各種の生理学的な臨床検査の結果に基づいて，視覚系の生理的または病理的なメカニズムについて階層的に考察できる。
（3）各種医療情報について，批判的思考を基に考えることができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	月	16:00-17:00	古瀬 尚	講義	[症例検討会] [研究検討会]	Neurology of eye movements, Binocular vision and ocular motility の輪読，実験の進捗の報告とディスカッションを行う。 [場所:総合医療センター 外来斜視検査室 病棟(9FW)]
2	隔週	水	16:00-18:00	古瀬 尚	講義	[抄読会]	研究に関する論文紹介と，内容に関するディスカッションを行う。 [場所:総合医療センター 外来斜視検査室(3F)]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1） 1年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1） 1年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

（1）発表時には，ディスカッションを通じて理解度を確認する。また，自らの研究との関連についても議論する。
（2）作成したパワーポイントファイルは，発表後に改善すべき点を指摘する。

教科書

ISBN-9784260053600, 標準眼科学, 園田康平, 中澤満編集 , 辻川明孝 , 医学書院, 2024
ISBN-9780323834063, Adler's physiology of the eye, Leonard A. Levin, Paul L. Kaufman, Mary Elizabeth Hartnett, Elsevier, 2025
ISBN-9781975118914, Walsh and Hoyt's clinical neuro-ophthalmology : the essentials, Neil R. Miller, Prem S. Subramanian, Vivek R. Patel, Lippincott Williams & Wilkins, 2021

参考書

ISBN-9780199969289, The Neurology of Eye Movements〈Contemporary Neurology Series〉(5th Edition), R. John Leigh・David S. Zee, Oxford University Press, 2015
ISBN-9780323011297, Binocular Vision and Ocular Motility : Theory and Management of Strabismus (6th Edition), Gunter K. von Noorden・ Emilio C. Campos, Mosby, 2001
ISBN-0721676731, Clinical strabismus management, Arthur L. Rosenbaum, Alvina Pauline Santiago, Saunders, 1999

準備学習（予習・復習等）

（1）眼科学に関する教科書（例：標準眼科学）を通読しておく。
（2）講義ごとに紹介する文献及び論文を，次回講義までに読んでおく。
（3）復習として授業中に質問した問題について，教科書，文献などで確認してください。
必要時間：３時間

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

論文を批判的に読む訓練により，科学的方法論・思考法を習得し，自らの研究活動に役立てる。

注意事項・メッセージ

講義の内容が，自分の行っている実験とどのような関連があるか考えながら臨むこと。